盌用法

〔日本書紀十三允恭〕元年十有二月、〇中略於是大中姫命、惶之不知退而侍之、經四五剋、當于此時季冬之節、風亦烈寒、大中姫命所捧鋺水溢、而腕凝不堪寒、以將死、

〔日本書紀十六武烈〕是時影媛逐行戮處、見是戮已、驚惶失所、悲涙盈目、遂作歌曰、〇中略拖摩該儞播、伊比佐倍母理、拖摩暮比儞、瀰逗佐倍母理、〇下略

〔大和物語下〕かくてなをみおりければ、この女うちなきてふして、かなまりに水をいれて、むねになんすへたりける、

〔枕草子三〕あてなるもの

けづりひの、あまづらにいりて、あたらしきかなまりにいりたる、

〔讃岐典侍日記上〕御まへにかなまりに、ひのおほらかに入たるを御らんじて、あれみれば、心ちのさはやかに覺ゆる、〇下略

〔日本靈異記中〕窮女王歸敬吉祥天女像得現報緣第十四

其飲食蘭、美味芬馥、無比無等、無不具足物、設器皆鋺、使荷之人卅人也、

〔空穗物語藤原の君〕をのこども、すのだい、かなまるして物くう、

〔今昔物語二十八〕三條中納言食水飯語第廿三

中納言、〇藤原朝成例食フ樣ニシテ、水飯持來ト宣ヘバ侍立ヌ、〇中略大キナル鋺ヲ具シタリ、〇中略中納言、鋺ヲ取テ侍ニ給テ、此レニ盛レト宣ヘバ、侍匙ニ飯ヲ救ツヽ、高ヤカニ盛上テ、高ニ水ヲ少シ入レテ奉タレバ、中納言臺ヲ引ヨセテ、鋺ヲ持上給タルニ、然許大キナル手ニ取給ヘルニ、大キナル鋺カナト見ユルニ、氣シクハ非ヌ程ナルベシ、〇又見字治拾遺物語

〔明良洪範二十四〕大母殿

此大母殿、〇秀忠ノ乳母月ニ一二度ヅヽ、定マリタルナグサミアリ、大板切ニ飯ヲウヅ高ク盛テ、扨六尺